

ゴーヘッドズ 速報

Goaheads

第11号 平成27年6月13日

打撃好調の二人のバットが火を噴き勝利をゲット

祐太郎逆転打柵越え、智同点適時打が流れを決めた!

	1	2	3	4	5	6	7	8	R
D	0	0	0	3	0	0	2		3
G	1	0	0	0	3	1			5



借金を後一つとして、臨んだ本日は、小雀での湘南ドリムとのオープン戦、久しぶりに使用するこの球場が、こんなにお花畑だったとは、記憶の彼方にもなかった。マウンドより、高いサードベース周辺が高いなど、怪我・珍プレーが無い事を祈りつつ、ゲームは始まった。今日のマウンドは久々の達脇、この達脇が初回を、三振を含む三者凡退で非常に良い発進を見せた。その裏の攻撃、先頭が倒れ一死後、今日二番に入った祐介が粘って、三線を抜く安打で出塁、しかし三番は倒れ二死となったが、4番の時に二盗を決める。ここで4男祐太郎が二球目を強振すると、センターフェンス直撃の安打で二塁より祐介を迎え入れ先制点を挙げた。その後二盗を決めたが、後続が倒れ初回は1点止まりとした。翌2回、一つの四球及びWPで走者を二塁まで進ませたが、その先を許さずこの回もゼロ封、その裏好投を見せる達脇が三遊安で出塁、しかし、次打者の三ゴロが併打になり2回終了。3回の攻撃、先頭に内野安打で出塁を許し、次打者には四球を献上。しかし、次打者の一直を今日ファーストに入った政司が好捕を見せ且つ飛び出した走者にタッチでDPとした。更には、三盗を試みた走者を捕手哲也が刺し、先程の守備のお返してピンチを切り抜けた。しかし、ここまで好投を見せていた達脇が崩れ始める。先頭を三ゴロに斬り一死としたが、次打者で安打で出塁を許すと、後続二打者に連続死球を与え、一死満塁のピンチを迎えた。次打者を投飛に斬り二死としたが、次打者に走者一掃の右越え2ベースを放たれ3点を与え、逆転を許してしまった。点の取られ方が良くないので、何か流が悪く感じたその裏の攻撃、一死後、今日初の四球を祐太郎が選択し出塁すると、二盗・三盗を決め、一死三塁と得点チャンスを広げた。が、後続2人に1本が出ず、この回無得点。5回に1安打を許したが、他を抑え、この回で達脇はマウンドを降りた。そして、その裏チャンスが訪れた。先頭の達脇がセカンド強襲安打で出塁、その後シローがきっちり犠打を決め、走者は二塁に。次打者政司は四球とすぐさま二盗で一死二・三塁とチャンスを広げた。ここで打撃好調の智が、初球を振り抜くとレフトオーバーの2ベース、この打球で二走者が生還し、同点とした。更に智の三盗の際に、捕手の送球がレフトまで転々とする間に智がホームインし、逆転とした。更には翌6回の攻撃、一死後、打席は祐太郎、初球を振り抜いた打球は左中間のフェンスを越える貴重な追加点を挙げ今日の勝利をぐっと引き寄せた。ちなみに、ゲーム前の打撃練習では20球中5発を柵越えした打撃は、そのまま好調を維持出来たようだった。そして最終回のマウンドは前の回から上がっている暢造、しかしここからがびりっとしなかった。2打者に連続四球を与え、後続を凡打に斬り一死としたが、今度は、守備の乱れで一死満塁とピンチと化した。そして次打者に押し出しの四球を与えその差は1点差、ここでマウンドは急遽祐太郎に、しかしアップ不足の祐太郎も押し出しの四球、ここで相手チームは劣せず同点とする。しかし、後続二打者を三振に斬り、ここで時間キレコールド勝ちを収めた。今日を振り返ると、やはり投手の与四球の多さであろう。相手投手完投し2個に対し、我がチームは8個、四球だけはどうしても周囲が手助けできない。際どいコースよりも、打たせる事を考慮しないと、僅差のゲームでの勝利は難しいであろう・・・